HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	黒沢清、映画のアレゴリー［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	阿部, 嘉昭
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	乙第7069号
Issue Date	2019-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/74063
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Casio_Abe_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）　　氏名：　阿部　嘉昭

主査　教　授　　応　雄
審査委員　副査　教　授　　押野　武志
副査　教　授　　武田　雅哉

学位論文題名
黒沢清、映画のアレゴリー

・当該研究領域における本論文の研究成果

現代日本映画において重鎮となる映画作家、黒沢清の作品は、すでに国内外で注目され、論評されつづけてきた。単行本として刊行された研究書に川崎公平による『黒沢清と〈断続〉の映画』もあるが、申請者の本論文はこれまでの先行文献や研究成果を踏まえつつ、極めて独自の作家論を展開させている。その主たる研究成果はまず、黒沢作品へのアプローチを「映画のアレゴリー」という概念に据えることにみられる。カフカ、ベンヤミンの文学・思想から示唆を受け、文学におけるアレゴリーの整理から出発する本論文は、「アレゴリーの映画」とは本質的に異なる「映画のアレゴリー」を多様な諸事象から析出し、黒沢作品を考察するキーコンセプトとして生産的に作動させるべく、同概念を各作品の内容・表現に即して「運動アレゴリー」、「代理報復」、「人間の擬人化」へと細分化させ、黒沢作品が「カフカ性」を内在的に有すること、しかもそれが映画の表現媒体に即した「カフカ性」であることを力説する。また、各作品論では、映画画面の細部を丹念に看取・描写し、あくまで細部の記述の積み重ねから議論を展開させ知的発見へと導くという論法を貫き、映画分析力の点において極めて高い水準に達している。細部に満ちる作品の意匠・機微を的確に捕捉する論者の力量はとりわけ評価されてしかるべきである。

・学位授与に関する委員会の所見

審査委員会は、学位申請論文が黒沢清作品を考察するにあたって用いる概念の新規性、および具体的な作品論で展開する知見に富む映画分析の価値から、本論文はこれからなされる黒沢研究が避けて通れない研究業績をなしていると高く評価する。いっぽう、審査委員会は再考の余地の残る点についても具体的に指摘した。「映画のアレゴリー」は新規の概念として黒沢作品を検討するにあたって極めて生産的な働きを有するものだが、それにたいする過大解釈とも思われうる箇所がみられなくもない。一部の事象についてなされた検討は別様の方法でもなされうる、あるいはなされてきたと思われるのだが、アレゴリーに拘る読解が議論に一貫性をもたせるいっぽう、ときに考察の視角の多様性を制限してもいる。また、申請者の論述は豊富な内実をもつとともにテンポの速い展開をみせており、個性的な文章表現も特徴的ではあるが、よりいっそう丁寧にステップを踏んだ議論展開をさせていれば、本論文の有する論理性と説得力がさらに増すことになったであろう。

いずれにしても、本論文がこれからの黒沢清研究において参照指標となる研究成果を上げたことを認め、審査委員会は全員一致で本学位申請論文が博士（文学）の学位を授与されるにふさわしいものであるとの結論に達した。